

先枯病（カラマツ）

当年生枝や新梢が侵されて枯れる。枯枝では漏出したヤニの塊がみられることが多い。7月過ぎになると黒い菌体が枝・幹の鱗片の隙間に現れる。まだ新梢が柔らかい6～7月に感染が起こると枯れた新梢はうなだれる。

【被害】

連年繰り返されると、ほうき状の梢端を呈するようになる。強風によってできた傷から感染する。

北海道立林業試験場・緑化樹センター



カラマツ先枯病